

普及技術10
分類名〔家畜〕

新しい基幹種雄牛「^{ひろいとなみ}洋系波」，「^{かつただひさ}勝忠久」，「^{かつふくざくら}勝福桜」

宮城県畜産試験場

1 取り上げた理由

肉用牛集団育種推進事業による和牛産肉能力検定は、優れた宮城県産の種雄牛を造成し地域の肉用牛の改良を推進するため実施されている。産肉能力検定の結果、宮城県肉用牛改良委員会で「洋系波」，「勝忠久」，「勝福桜」が選抜され基幹種雄牛となったのでその特性を示し普及技術とする。

なお、平成29年9月から家畜人工授精用凍結精液が配布されており、「洋系波」は県内で保留されている気高系、藤良系及び田尻系を父に持つ母牛等へ、「勝忠久」と「勝福桜」は茂洋など茂金系を父に持つ母牛等への交配利用が期待されている。

2 普及技術

1) 和牛産肉能力検定済み種雄牛「洋系波」，「勝忠久」，「勝福桜」を基幹種雄牛とする。



写真1 「洋系波」

写真2 「勝忠久」

写真3 「勝福桜」

2) 特性等

- a 「洋系波」は父に「茂洋」，母の父に「茂系波」，母の母の父に「北国7の8」を持つ血統であり，茂金系の強い血統構成の肉質肉量兼備型の種雄牛である。「勝忠久」は父に「安福久」，母の父に「勝忠久」，母の母の父に「金幸」を持つ田尻系と気高系からなる血統で，肉質重視型の種雄牛である。「勝福桜」は父に「勝忠平」，母の父に「福桜(宮崎)」，母の母の父に「安平」を持つ気高系田尻系からなる血統で，肉量重視型の種雄牛である。（表1，表2）。
- b 「洋系波」の産子は，現場後代検定の結果から，枝肉重量，ロース芯面積，バラの厚さ，推定歩留，脂肪交雑に秀でており，とくに脂肪交雑の平均9.3は歴代最高成績である。「勝忠久」の産子は，推定歩留，皮下脂肪厚，脂肪交雑に秀でており，とくに雌のA4・A5率は100%である。「勝福桜」の産子は枝肉重量，ロース芯面積，脂肪交雑に秀でており，とくに枝肉重量の平均499kgは基幹種雄牛中歴代4位の成績である。また子牛の発育においては共に優れた発育値が期待できる（表2，表3）。

表1 生年月日，産地，血統，特性（優点，欠点）

名号	生年月日	産地	父	母方祖父	母方曾祖父	優点	欠点
洋系波	H23. 3. 23	栗原市花山	茂洋	茂系波	北国7の8	発育， 資質，体伸	肩後，肘 後，体上線
勝忠久	H21. 12. 17	栗原市金成	安福久	勝忠平	金幸	発育， 堆積，資質	やや体上線 肋張
勝福桜	H23. 5. 12	登米市南方町	勝忠平	福桜(宮崎)	安平	体積， 発育，体 伸，資質	肩後， 体上線

表2 現場後代検定

名号	性	頭数	出荷月齢	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積(cm ²)	バラの厚さ (cm)	BMS No.	4等級以上率 (%)
洋系波	去勢	9	29.9	541.9	72.1	9.0	8.9	88.9
	雌	7	29.8	470.4	75.6	8.7	9.9	100
	全体	16	29.8	510.6	73.6	8.9	9.3	93.8
勝忠久	去勢	14	30.2	511.5	70.3	8.7	8.0	85.7
	雌	9	30.0	466.4	74.0	8.9	8.7	100
	全体	23	30.1	493.9	71.7	8.8	8.3	91.3
勝福桜	去勢	10	29.5	524.4	68.5	8.8	7.4	80.0
	雌	14	29.1	480.4	71.4	8.5	7.7	92.9
	全体	24	29.3	498.7	70.2	8.6	7.6	87.5
全国※		—	29.2	456.2	56.7	7.7	6.0	—

※平成28年度広域後代検定平均値

3 利活用の留意点

1) 洋系波は「茂洋」を父牛に持つ、勝忠久は「安福久」を父牛に持つ、そして勝福桜は「勝忠平」を父牛に持つ繁殖雌牛との交配は近交係数が高くなるので、注意を要する。

(問い合わせ先：宮城県畜産試験場酪農肉牛部 電話0229-72-3101)

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間 肉用種雄牛の検定(平成24～29年度)

2) 参考データ

表3 和牛産肉能力直接検定成績

名号	1日平均 増体重	365日 補正体重	TDN余剰飼料 摂取量※	粗飼料 摂取率
洋系波	1.05kg	472.0kg	45	52%
勝忠久	1.21kg	433.2kg	-29	54%
勝福桜	1.25kg	468.5kg	-7	51%

※：TDN余剰飼料摂取量
直接検定牛の飼料効率を表す指標で、一定の増体量に対する飼料の利用効率能力を表す。0が平均値を、マイナスは飼料効率が良いことを示す。

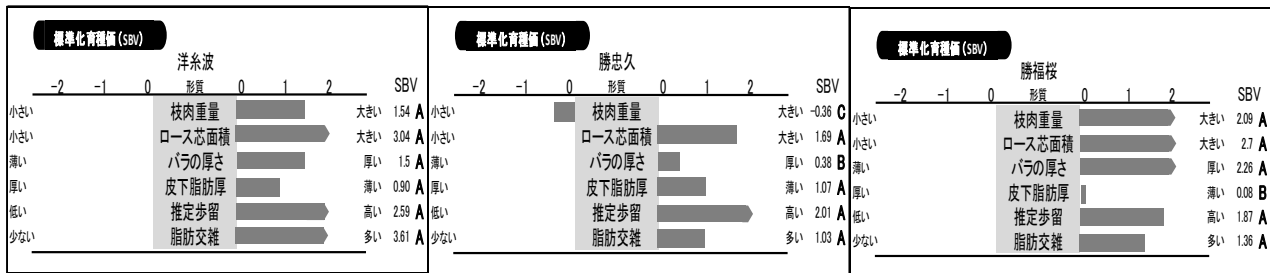


図1 「洋系波」「勝忠久」「勝福桜」の標準化育種価(SBV)※

第38回宮城県和牛育種報告(平成29年10月分析)より算出

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術 なし

※標準化育種価(SBV)

・上記6形質について、県内繁殖雌牛の平均値を0として種雄牛の持つ遺伝能力(育種価)を次式によって標準化したもの。ただし、皮下脂肪厚については、薄い方が良いため±を逆と表示する。2～-2は標準偏差(σ)単位。

$$SBV = (\text{当該種雄牛の育種価} - \text{県内繁殖雌牛の育種価平均}) / \text{県内繁殖雌牛の育種価の標準偏差}$$

・標準化育種価の値が大きいほど(グラフ横棒が右側に長いほど)好ましく、その大きさが個体の持つ能力・特徴を表すことができ、一般に1を超える場合は、その能力を強く有するものとみることができる。

※育種価「A～C」評価

・各形質において、上位1/4以上の範囲に入る育種価を持つ個体を「A」、上位1/4未満、平均以上の育種価を持つ個体を「B」、平均未満の育種価を持つ個体を「C」として表示。

b その他 なし

4) 共同研究機関

全国和牛登録協会宮城県支部